

1年次（44期生）の振り返り

【目的】 入学した目的・目標を明らかにし、社会規範を守り思いやりを持った主体的行動を取ることができる。

学生の評価基準 4：良くできた 3：おおむねできた 2：あまりできなかった 1：できなかった

目 標	振り返り
<p>1. 新しい学習環境に適応できる。</p> <p>学生の評価 4：4名 3：15名 2：11名 1：1名</p> <p>細目標</p> <p>1) 仕事と学校生活の両立ができ、毎日出席できる</p> <p>2) 学習環境を整えることができる。</p> <p>3) 学習する習慣を身につける。</p>	<p>1) 学生生活状況の把握のために面接を2回（5月・3月）実施した。ハイパー-QUで退学ハイリスク群を配慮して面接を行えた。しかし、そのように対応しても1名は退学となった。またそれ以外の退学者2名のハイパー-QUは全く問題のない結果であり、これによる退学リスク者の把握や対応は十分ではなかった。</p> <p>そして欠席については、健康管理と単位の認定のための出席管理をその都度伝えることで、平均欠席日数は2.8日/年と比較的少なかった。後期に欠席日数が増えてしまったため、特に冬期の体調管理について今後も指導を行う必要がある。</p> <p>2) 学習環境については、私語が多く指導やクラス内の話合いを行ったが授業態度がなかなか改善しなかった。講師や学生間でもうさいと苦情がありそれによりクラスの関係にも影響が出てしまった。入学前からそのような姿勢で授業参加していたことも原因のようであり、今後も意識をどう変えるかが課題である。振り返りアンケートから新しい学習環境の適応を「おおむねできた」との回答が最も多かったことから、概して仕事と学校の両立はできたのではないかと考えられるが「あまりできなかった」も多数いた。原因としては単位未認定や再試験を多くとってしまった事、自宅学習があまりできていなかったこと、授業中に私語が多かったことが挙げられ、課題を定期的に出す事での学習習慣の確立やプロジェクト学習での動機付けでは効果が不十分であった。</p> <p>3) 学習習慣は、提出物を出さない事が多い学生・再試験を受ける学生は決まっていた。そのような学生を中心に振り返りでも学習時間の不足を感じているようであった。ビジョンゴールや振り返りの中で「学習時間を増やしたい」と書いている学生は多く、学習不足を科目試験や模擬試験で実感していることで動機づけにはなっていると考えられる。一方で学習時間はあっても成績が伴わない学生も増えており、実習や国家試験勉強でつまづく学生と予測される。学習の仕方の確認や指導を口頭では行っているが、個別で時間をかけた指導が今後必要であると考えられる。</p>
<p>2. 何の為に学習するかを考え、主体的に行動する習慣を身につけることができる。</p>	<p>1) 今年度よりパフォーマンス評価のための導入として、4年間使用するためのポートフォリオの作成とビジョンゴールシートを記入し、それをもとにしながら、前期末・年度末に振り返りを行った。ビジョンゴールは看護学概論の科目の中で、多岐にわたる看護師の仕事のイメージがもてるよ</p>

<p>(国家試験対策含む) 学生の評価 4 : 3名 3 : 20名 2 : 8名 1 : 0名</p>	<p>うにした上で記入した。それにより目指す看護師像は明確になっており、またアンケートでも大半の学生が「おおむねできた」と答えていたため効果的に導入できたと言える。ただ、ポートフォリオに価値あるものを追加する学生はまだ少ない為、継続的なポートフォリオの構築を言い続けることが必要である。</p>
<p>細目標 1) 看護師になる目的意識(意欲)を明確にし、学習に取り組む力とする。 2) 主体的に行動するために、脳ナビ「人体マスター！」として、能動的に学習内容を精選し進める。3月に模型・学習成果をまとめ発表できる。 3) 基礎看護技術を主体的に身に付けるための行動ができる。</p>	<p>2) 主体的に学習行動をするために、プロジェクト学習「人体マスター」として選んだ臓器をリアルに作成することに脳ナビの時間を利用して取り組んだ。年間での取り組みとなった為製作の進行が遅かったり、成果物の発表を自宅研修で行えなかったりしたため、主体的な学習につながったかは不明であった。所感としては、学生の持つ学習意欲の差により取り組み方に大きな差があった。今後主体的に学習をするためにも、学習意欲を延ばす動機づけと共に継続的なプロジェクト学習の取り組みが必要であると考えます。</p> <p>また、学力低下に伴い再試験該当者が増えており放課後学習会を行いつつ、参加した学生には学習の仕方・内容を確認した。学習支援者への学習指導の機会になるため、今後も実施が必要である。また、夏期休業中にも基礎学力に対する補習として、計算問題の学習会を行ったが学習意欲の高い学生だけの参加になってしまった。全体の学力底上げのためには、定期的に全員に対する課題が必要であると感じた。</p> <p>3) 基礎看護学での技術試験の合格者は、パフォーマンス評価への変更により多くなった。評価方法が変更したことで手順ではなく根拠を考える学生が増え、放課後練習会も参加者が毎日おり、一部の学生を除いては主体的に行動がとれていた。</p>
<p>3. 思いやりの気持ちを持ち、周囲への気配り・心配りを意識し行動できる 学生の評価 4 : 7名 3 : 19名 2 : 5名 1 : 0名</p>	<p>係りについては挙手で決まってはいるが、放課後の掃除も含めやらない学生は決まっており、それにより学生間での摩擦はあった。思いやりとは相手の立ち位置から物事を捉える事でありそのために相手の話を聞く・自分のできる事をしてクラスを支えることが必要であることなどを伝えた。十分にメンバーシップが取れていないが、学生の評価では「おおむねできた」と答えており、思いやりを持った行動は自分達としてはできたようである。</p>
<p>4. 基本的な生活習慣を整え、看護学生として責任ある行動をとることができる。 学生の評価 4 : 9名 3 : 15名 2 : 6名 1 : 0名</p>	<p>学則の遵守に関しては、欠席欠課届の提出は声をかけなければなかなかできない学生が多かった。しかし何度も折をみて伝えることで単位に関わる手続きなどで問題は起こらなかった。</p> <p>学生全体では、基本的な生活を身につけることに関して「まあまあできた」の回答が最も多く、大体できたと感じている。これは、合宿やHRを活用しての注意喚起などにより、呼び出しの確認や教員とのコンタクトの取り方、寝坊などの遅刻がないこと、髪の色等が守れてきていることから徐々に身につけてきていると考える。</p>